

4-02 認知症の正しい理解普及を目指して ～認知症サポーター養成講座を振り返って～

○佐平 安紀子(OT)

社会福祉法人関西中央福祉会 平成リハビリテーション専門学校

Key word : 認知症, 地域活動, アンケート

【はじめに】わが国では、高齢化の進展に伴い、認知症高齢者の更なる増加が見込まれている。厚生労働省は、2015年1月に新オレンジプランを策定し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりを目指している。その1つの柱が「認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進」であり、認知症サポーターの養成などが盛り込まれている。このような社会的な背景を踏まえ、当校では2018年より定期的に地域住民や学生を対象とした認知症サポーター養成講座(以下、サポーター講座)を実施している。今回、サポーター講座のアンケート結果を振り返ることで、今後の講座の示唆を得ることを目的とした。

【方法】対象は2018年10月6日から2019年9月14日に実施したサポーター講座計8回の参加者97名のうち、アンケート協力が得られた86名(男性37名、女性49名)とした。サポーター講座の講師はキャラバンメイトの資格をもった当校作業療法士3名のいずれかとした。アンケート内容としては

- ①参加回数
- ②性別・年代
- ③参加理由
- ④認知症の理解について
- ⑤認知症のイメージ
- ⑥周囲の理解による影響
- ⑦地域サポートの必要性
- ⑧作業療法士の関わりについて
- ⑨自由記載

を含めた9項目とした。④～⑧の項目に対しては実施前後での聞き取りを行い、その他の項目は実施前にアンケートを実施した。統計処理はWilcoxonの符号付き順位検定を使用し、有意水準は5%とした。なお、事前にアンケートの趣旨を口頭・紙面にて説明した上で、提出をもって同意とした。

【結果】アンケート回収率は86.6%であった。初回参加者が77.9%、性別は男性43%、女性57%、10～30代が参加者の大半であった。参加理由としては理解を深めるためとの回答が34.9%と最も高かった。認知症の理解度やイメージ、周囲の理解による影響、地域サポートの必要性、認知症者への作業療法士の必要性については実施前後に有意な差が見られており($p<0.01$)、90分の講座内容で一定の理解を得られていることが分かった。自由記載の回答では、認知症を学べる場や認知症の方・ご家族が気軽に集まれる場、周囲へ関心を向け助け合う意識を普及する必要性等の意見が多く挙げられた。

【考察】今回、当校学生の参加が多く、参加者は若年層が多い結果となっている。講座は90分を目安とし、西宮市が推奨しているテキストを中心とした概ね固定化された内容となっている。今回の結果より、90分と短い時間であってもサポーター講座は、認知症の理解やイメージ改善等に繋がり、実施している内容は適切であることが確認できた。しかし、実施終了直後のアンケートとなっており、参加後の定着等は確認できておらず、参加者に対して今後につなげる取り組みが課題となっている。現在も取り組みは継続しており、地域住民の参加も増加傾向である。また、社会福祉協議会と連携のもと、企業や地域住民への講座開催、新人キャラバンメイトの講座見学受け入れ等の活動も展開している。サポーター講座では、地域のリーダーとして、まちづくりの担い手が育つことも期待されている。今後も認知症に対する理解と知識を深め、認知症患者への対応方法を具体的に学ぶことができる講座を実施していく必要性は高い。自由記載で意見の多かった「気軽に参加できる集いの場」や意識の普及に関しては、社会福祉協議会や地域の集まりと連携し、作業療法士の目線からも参加の重要性を提案していけるよう、地域での取り組みを継続していきたい。